

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 睦会	代表者	理事長 中沢 允	法人・事業所の特徴	運営法人(昭和52年設立)は長野市と須坂市で高齢者中心の総合福祉事業を展開している。当時業者は「住み慣れた地域で あなたらしく いきいきと」を運営方針に掲げ、ご利用者、ご家族はもちろん、スタッフもいきいきとできる事業所を目指している。
事業所名	むつみ家いきいき	管理者	新村 潤		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	人	1人	1人	人	15人	人	21人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 「よりそいシート」を全利用者について活用する事を通じ、個別サービスの充実をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強会を開催し作成を進めたが、シートの完成・活用は数名分に留まった。 ただし、外出・外食の意向については先行して調査を行い、11名について実際に支援し好評を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> シートの内容項目の見直しが必要。 外出や外食、地域行事への参加を取り入れての寄り添いは評価できる。 ケアマネが中心になり、アセスメントの見直しにも繋げて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「よりそいシート」を全利用者について作成し活用する。 ヒヤリハットの件数を増やし、職員の気付きに繋げ、事故防止に取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 視察時間を5月、9月、1月の会議に設け、現場の状況を理解してもらう。 事故予防の視点を含め、事業所内外の環境改善をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月と1月にレクリエーションの視察機会を設け、委員の理解を得た。 感染症対策としての個室改修、室温対策としての玄関網戸の設置、リビングの模様替え等の環境改善を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> トイレが遠く、少し寒い。 家庭的で明るい印象だが、空間が少し狭い。物が多いと事故のリスクも高くなるので注意を。 今後も視察・研修の継続をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 事故防止の視点を含め、事業所内外の環境改善をはかる。 利用者一人ひとりにとって、居心地の良いリビングづくりを進める。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 「いきいきだより」を年3回の頻度で発行すると共に、地域回覧も実現する。 小規模多機能サービスに関する分かりやすいパンフレットを作成し、配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 併設特養と合同の「柴やすらぎだより」に刷新し、8月と12月に発行、寺尾地区内の全戸に回覧した。 単独での作成には至らなかったが、上記の中でサービス紹介を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校等が近く、地域との接点を持ちやすい事が事業所の強み。関わりを増やす取り組みの継続を。 「柴やすらぎだより」がよかった。 多機能サービスの分かりやすいパンフレットの作成を願う。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例を含んだサービス案内パンフレットを作成し活用する。 職員向け研修会への参加を地域に呼びかける等、施設機能の地域開放に取り組む。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい会食等で、民生委員等の地域関係者と情報交換の機会を持つ。 地元公民館の文化祭等、地域行事への参加を拡大する。 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい会食でサービス紹介を行った他、オレンジカフェに利用者及び職員が毎回参加し、連携を深めた。 文化祭の他、各運動会、大室古墳群祭等に参加し例年以上に実績を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方から「拠点」の一つとして認識されているという印象を持つ。 民生委員の力は大きい、受けるだけでなく、能動的に行動していこう。 地域への開放された姿勢に感謝する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活かした、利用者個別の外出支援の機会を増やす。 地域行事への参加を年間予定表に位置づけ、計画的に実施する。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 会議での意見を事業に活かすため、会議の開催と近接して全職員会議を設け、内容の周知と具体的な改善策等を講ずる。 	<ul style="list-style-type: none"> 5月より推進会議に併せて全職員会議を設け、推進会議での意見、助言を踏まえた報告及び協議を行った。 当該会議は、認知症等の研修機会ともなり有効であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題の把握に努めて欲しい。 寺尾地区区長会と職員との交流会があっても良いか。 全職員対象の研修会は今後も継続して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議はもとより、あらゆる機会を捉えて地域の抱える課題を明らかにし、事業所として解決に向けた貢献をする。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 施設は浸水想定区域に立地しているため、水害に対する避難確保計画を作成すると共に、避難訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 併設特養と共に「柴やすらぎの園洪水時の避難確保計画」を策定し、3月の防災訓練時に水害想定での避難訓練を実施した、 	<ul style="list-style-type: none"> 千曲川が近く、水害対策を早急に立てる必要性が高い。 有事に備えた訓練を実施して欲しい。 地域との連携があっても良いか。 	<ul style="list-style-type: none"> 洪水時の避難確保計画に基づいた避難訓練を定期化する。 運営推進会議にて各種防災計画を説明し、助言をいただく機会をもつ。